



地面に腰を下ろし、手のひらを天に向け祈る数百万人もの信者。「アッラーアッラー」と繰り返すたび、地響きとともに振動が腹に伝わる。

1月末から2月初旬、3日かけて行われる巡礼祭「ビッショ・エステマ」。バングラデシュの国内外からイスラム教の権威者を首都ダッカに迎え、500万人もの信者とともに礼拝する、イスラム教最大規模の巡礼祭の一つである。イスラム教徒の義務とされている「ハッジ」（メッカへの巡礼）と同等の意味合いがあるため、メッカまで行く費用を工面できないバングラデシュ国民にとっては、最も大切な行事といえる。

メイン会場となるのは、ダッカの北西にあるトンギというエリア。だが、トンギにはモスクがあるわけでも、塔が建っているわけでもない。象徴となるものは一切なく、ただただ広がる空き地が、彼らにとっての聖地なのだ。

最も盛り上がりを見せる最終日、トンギは信者たちのテントで埋め尽くされる。朝早くから市内の道は人々で溢れ返り、座る場所を確保するのも大変な中で祈りは始まる。涙を流しながら祈るその姿からは、自らの神に対する愛と強い信仰心がうかがえる。

春

夏

秋

冬

28

1月 ビッショ・エステマ

# 神に捧げる 祈りの三日間

